



“モービラックスEP-0, 1, 2” —EMG ルブリカンツ—

工業用極圧グリースで、衝撃荷重や重荷重に最適です。

1. No.0 は集中給油、No.1 は冬用、No.2 は一般用（春・夏・秋に）
2. 万能グリースですが、重工業の軸受けに
3. 耐水性、さび止め性、防食性に優れている。

荷姿：No. 0*、1, 2・・400 g ジャバラ（弊社充填品）×1, 5, 10, 20 本、16 kg 缶

※No.0 のみジャバラは、380 g（弊社充填品）です。



「徳島紀行」3

若いときから何故かトイレが近かった。薬局店の店主で同級生の哲ちゃんに、教えてくれた。

「ターちゃんの膀胱のセンサーは、きつと感覚が良すぎるのか下部の方に付いているのか、どっちかだなあ」

当然如くそれは今も変わらないうし、加齢と共に更に近くなって鳴門海峡の渦を見るため妻と一緒にバスに乗り込んだ。勿論駅構内のトイレでは、十分すぎるほど絞り出してきたつもりだった。

乗車して一時間を過ぎた頃、やつぱり恐れていたものがやって来た。乗り合わせた人の話では、鳴門の乗船場まではまだ三十分程はかかるという。これはいかん、とてもそれまではもたない。脂汗が滲んできた。そんな時妻がわたしのわき腹をつついて『目の前に駅があるわ、ここで降りてしたら』
『そうだな、ここで降りよう』

『鳴門海峡の旅は、トイレにあり』

バスのドアが開くと同時に駅のトイレに駆け込んだ。



“ふうっと”一息ため息をついた。開放感が全身を駆け巡った。徳島市のお客様を本社訪問させていただいたので、時間も大分少なくなっていた。ここから鳴門迄はタクシーで行くことにした。

乗船場に付いたときは、最終の観光船で私たちだけだった。お陰で若い乗組員も手持ち無沙汰だったのか、渦潮の出来方から見方まで丁寧に教えてくれた。

渦は、あの荒々しさは無く小さく静かに舞っていた。ゆっくりと暮れてゆく瀬戸内の海と鳴門海峡をわたる瀬戸大橋を眺めながら、私たちは静かな満足感に酔っていた。

勿論、帰りは電車にした。授業を終えた高校生達が、たくさん乗ってきた。車窓を流れる蓮根畑を見つめながら、楽しかった高校時代を思い出していた。

仲良し四人組みのこと、進学を目指し勉学に励んだ日々・・・

..... ☆★☆☆ あとがき ☆★☆☆



2017年10月号を最後に、間もなく2年の歳月が流れようとしています。歲月人を待たずと言いますが、本当に月日の過ぎるのは早いものです。

私ども夫婦が住む同じ敷地に現常務取締役の次男が家を建て、可愛い孫も増えました。会社では、昨年11月に新人の渡邊君が入社してくれました。私もそろそろと考えていますが、も少し“お客様のために”頑張ります。